

ファームウェア Version 1.1.2 で追加された機能

以下の機能はファームウェア Version 1.1.2 で提供されました新機能です。

1. 追加機能パッケージ
2. スタートアップスクリプト機能
3. UPnP セッション固定機能
4. 接続ログ機能
5. PHP 対応 Web サーバ設定
6. IPv6 ブリッジ設定
7. FTP サーバへの anonymous 設定

本ファームウェアをご使用する上でのご注意！

本ファームウェアを適用後、再起動に掛かる時間が長くなります。再起動後に、IPアドレスの自動取得ができていない場合は、再度IPアドレスの取得を行ってください。パソコンのネットワーク設定については、詳細取扱説明書 P9-2 「パソコンのIPアドレスの管理」を参照してください。

「追加機能パッケージ」

本商品では、各種の追加機能を「追加機能パッケージ」として提供します。当社ホームページからダウンロードした追加機能を、本商品にインストールすることで新機能をご利用いただけます。また、インストールした「追加機能パッケージ」は各パッケージごとに、有効/無効の切り替えが可能です。

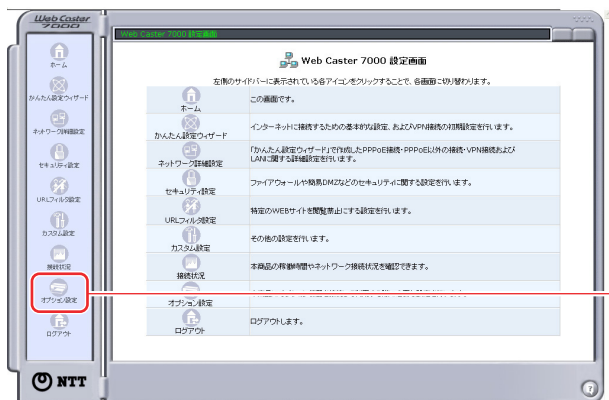
「追加機能パッケージ」のインストール

「追加機能パッケージ」のインストールを開始する前に、「追加機能パッケージ」ファイルをダウンロードして、パソコンのハードディスク上に保存しておいてください。

！ ご注意

ファームウェア Version 1.0.8 で追加されました PHP 対応 Web サーバ機能をご利用の場合は、本ファームウェア Version 1.1.2 からは追加機能パッケージとして別途インストールする必要があります。

1 サイドバーから[オプション設定]アイコンをクリックします。



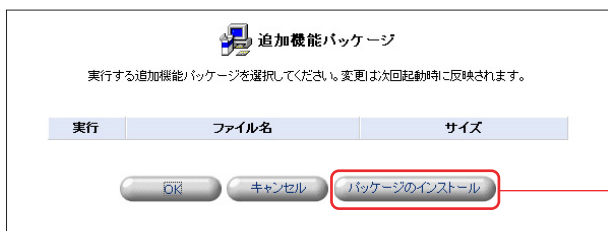
クリックします。

2 [オプション設定]画面が表示されます。[追加機能パッケージ]アイコンをクリックします。



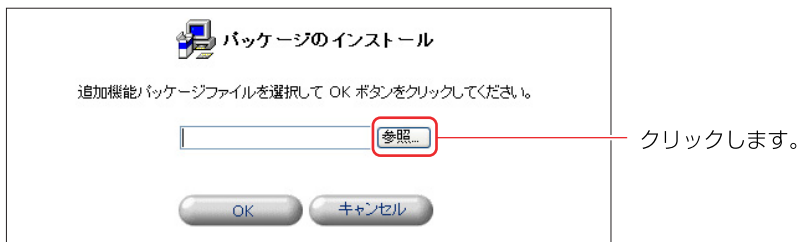
クリックします。

3 [追加機能パッケージ]設定画面が表示されます。[パッケージのインストール]ボタンをクリックします。

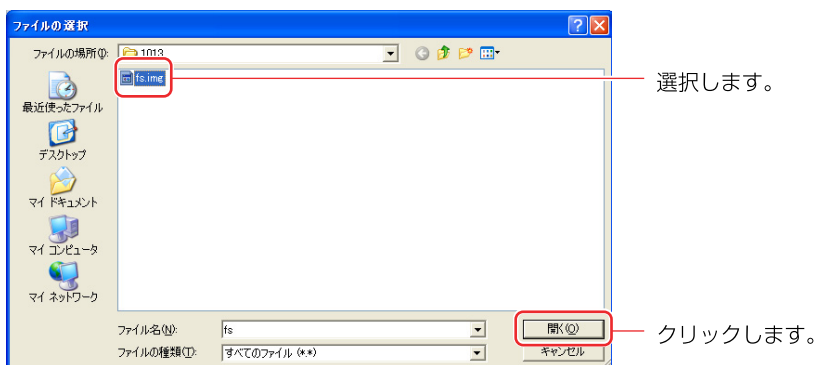


クリックします。

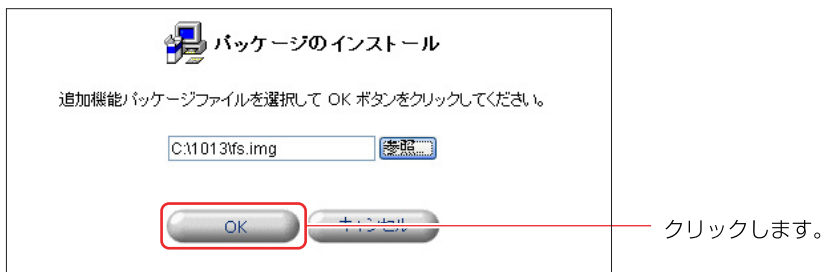
- 4 [パッケージのインストール]画面が表示されます。[参照]ボタンをクリックします。



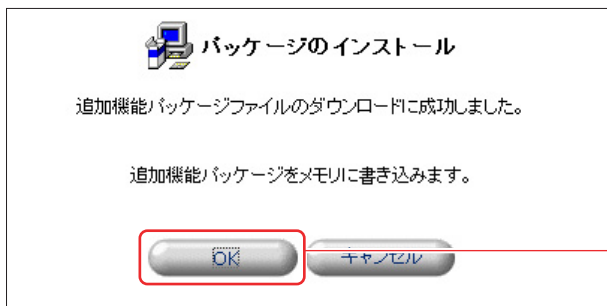
- 5 ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。保存しておいた [追加機能パッケージ] ファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。



- 6 [OK]ボタンをクリックします。



- 7 [追加機能パッケージファイルのダウンロードに成功しました]の画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックすると、追加機能パッケージを本商品にインストールします。



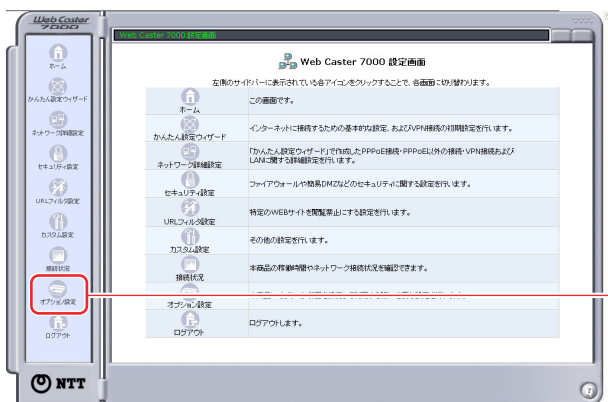
- 8 「追加機能パッケージ」のインストールが開始されます。インストールが終了すると[追加機能パッケージ]設定画面が表示されます。画面にインストールされた「追加機能パッケージ」が一覧表示されます。



「追加機能パッケージ」の設定

インストールした「追加機能パッケージ」は、各パッケージごとに「有効」または「無効」に設定することができます。

- 1 サイドバーから[オプション設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定]画面が表示されます。[追加機能パッケージ]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [追加機能パッケージ]設定画面が表示されます。画面にインストールされた「追加機能パッケージ」が一覧表示されます。チェックボックスにチェックされたパッケージが「有効」に設定されているパッケージです。



表示されます。

- 4 「有効」に設定したいパッケージのチェックボックスをチェックします。「無効」に設定したいパッケージのチェックボックスはチェックを外します。



チェックします。

クリックします。

- 5 [OK]ボタンをクリックします。

1 ご注意

本商品にインストールした追加機能パッケージを有効にする場合は再起動が必要になります。

スタートアップスクリプト機能

ユーザが作成した任意のスクリプトを本商品上で実行する機能です。

本商品に接続した、USBハードディスク、ATA PCカードメモリの(ルート)ディレクトリ上に“ startup ”というファイルが存在した場合、本商品の起動時にこのファイルを自動的に実行します。

! ご注意

本商品が対応してるスクリプトはPHPスクリプトのみになります。

なお、インタプリタ起動用として、1行目に“ #/usr/local/bin/php ” と記述する必要があります。

また、文字コード、改行コードは以下の通りです。

- ・文字コード：2バイト文字は使えません。
- ・改行コード：LF

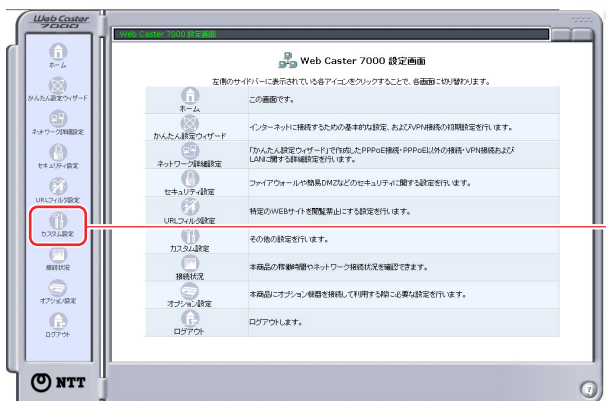
UPnP セッション固定機能

ここでは、マルチセッション使用時のUPnP適用セッションを設定する方法について説明します。本商品では、マルチセッション使用時に設定したセッション(最大4)のどれかに、UPnP機能を設定することができます。接続セッションが1つの場合は、本機能の設定は必要ありません。

本機能を設定する場合は、マルチセッションの接続設定を行う必要があります。

P.6 - 19「PPPoE接続でマルチセッション接続を設定する場合」をご参照ください。なお、UPnP適用セッションは複数選択することができません。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

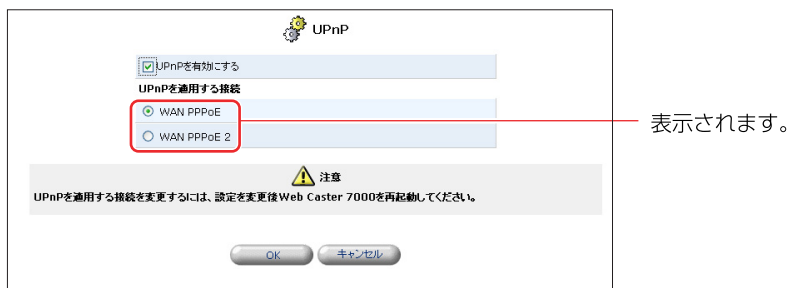
10

追加機能

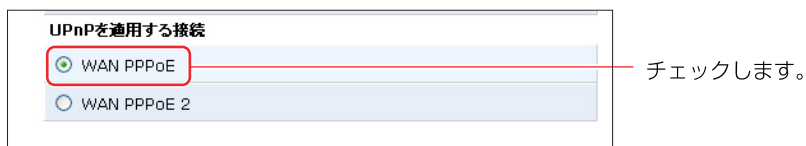
2 [カスタム設定]画面が表示されます。[UPnP]アイコンをクリックします。



3 [UPnP]の画面が表示されます。[UPnPを適用する接続]欄に現在接続済みのセッションが表示されます。



- 4 UPnP 機能を利用するセッションにチェックを付けます。



! **ご注意**

本機能で設定した接続セッション以外でUPnP機能はご利用できません。

- 5 [OK]ボタンをクリックします。

- 6 以上で設定は終了です。

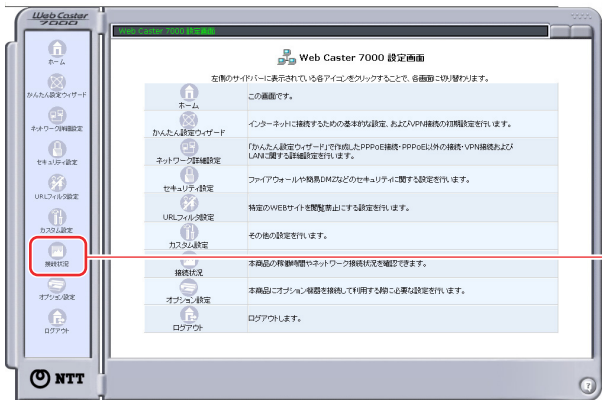
! **ご注意**

UPnPを適用する接続を変更した場合は、設定を変更後 Web Caster 7000 を再起動してください。

接続ログ機能

ここでは、PPPoE接続、VPN接続のネットワークへの接続状態の確認をする方法について説明します。

- 1 サイドバーから[接続状況]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [接続状況] の画面が表示されます。[接続ログ] ボタンをクリックします。



接続状況

接続状況 稼働時間 接続ログ

接続名	LANポート	WAN PPPoE	WAN PPPoE 2
ステータス	接続	接続	接続
MACアドレス	00:90:cc:61:8b:b4		
IPアドレス	192.168.1.1	221.184.88.29	220.216.188.48
サブネットマスク	255.255.255.0		
デフォルトゲートウェイ		61.207.30.50	220.210.195.68
DNSサーバ		202.234.232.223 211.129.12.214	220.210.194.67 220.210.194.68
DHCPサーバ	有効		
ユーザ名		fd9s2jus@ipcon.ocn.ne.jp	guest@fiets
受信パケット	783	7	3
送信パケット	1236	5	3
トータルパケット	2019	12	6

自動更新 OFF 表示の更新

クリックします。

3 本商品の接続ログが表示されます。



接続状況

接続状況 稼働時間 接続ログ

ログのクリア 表示の更新

時刻	イベント	タイプ	詳細
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: secondary DNS address 220.210.194.68
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: primary DNS address 220.210.194.67
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: remote IP address 220.210.195.68
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: local IP address 220.216.188.48

ログの見方（例）

詳細メッセージ	説明
Sending PADI	PPPoE セッションが開始されました。
Connection-Terminated	セッションが終了しました。
Authentication-failuer	認証に失敗しました。
Rejecting IP Address	PPPoE サーバから IP アドレスが拒否されました。
local IP address	WAN ポートの IP アドレスを取得しました。
remote IP address	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを取得しました。
primary DNS address	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを取得しました。
secondary DNS address	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを取得しました。
listening for IKE messages	IKE メッセージを確認しています。
initiating Main mode	IPsec のメインモードを開始しました。
ISAKMP SA established	メインモードで ISAKMP SA を確立しました。
initiating Quick mode	IPsec のクイックモードを開始しました。
IPsec SA established	IPsec をメインモードで確立しました。
deleting connection	接続を切断しました。
MSCHAP-v2 peer authentication	PPTP 接続を MSCHAP-v2 で認証しました。

MSCHAP peer authentication	PPTP 接続を MSCHAP で認証しました。
CHAP peer authentication	PPTP 接続を CHAP で認証しました。
MPPE 128bit	PPTP 接続で MPPE 128bit が有効です。
MPPE 40bit	PPTP 接続で MPPE 40bit が有効です。

PHP 対応 Web サーバ設定

ここでは、本商品の PHP 対応 Web サーバを WAN 側に公開する方法について説明します。

本商品で PHP スクリプトを動作させる場合は、本商品に接続された ATA PC カードメモリまたは USB ストレージ(ハードディスク、フラッシュメモリ等)に PHP スクリプトを配置することで、表示が可能になります。

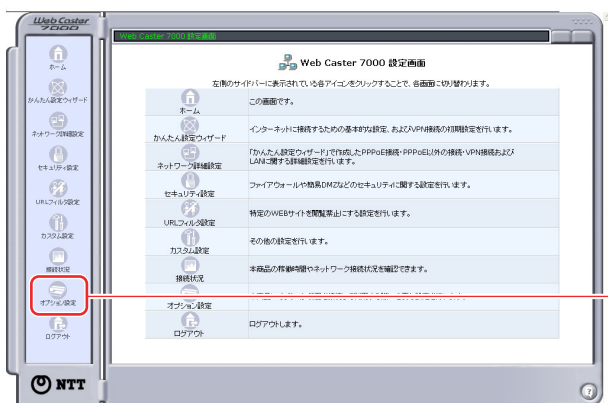
また、配置した PHP スクリプトを WAN 側から見る場合は、PHP スクリプトを配置した ATA カードまたは USB ストレージのディレクトリ、パーティション設定を行い、8008 番ポートをパケットフィルタリングで通過させます。

! ご注意

本商品の 80 番、8080 番ポートを利用した Web サーバ公開の設定に関しましては、従来と同じ設定方法でご利用できます。

PHP 対応 Web サーバの設定をする場合

- 1 サイドバーから「オプション設定」アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定]画面が表示されます。[PHP対応WEBサーバ]アイコンをクリックします。



- 3 [PHP対応WEBサーバ]画面が表示されます。「パーティション」欄からPHPスクリプトを配置したパーティションを選択します。



USBストレージをご利用の場合に、パーティション欄において、パーティションの番号(A～N)を選択していただくことにより、Webサーバにアクセスする時のURLを指定する際にパーティションの番号の記述を省略できます。「指定無し」を選択した場合には、Webサーバにアクセスする時のURLを指定する際にパーティションの番号の記述が必要となります。また、ATA PCカードメモリをご利用の場合も、パーティション欄において、「指定無し」を選択してください。

Webサーバにアクセスする時のURL指定の詳細については、P.10 - 98「インターネットからWebページを見る場合」を参照してください。

4 [ドキュメントルート] 欄にディレクトリ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

例) ・パーティション A ドライブに html フォルダを作成した場合

パーティション:	A
ドキュメントルート:	html

・パーティション A ドライブに html フォルダを作成し、その中に main フォルダを作成した場合

パーティション:	A
ドキュメントルート:	html/main

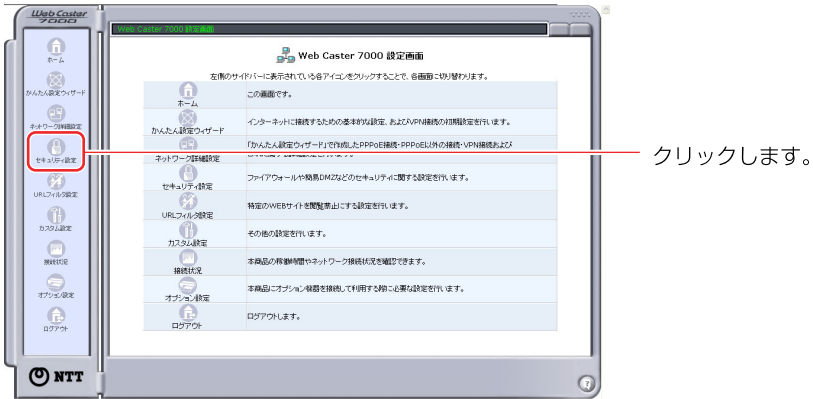
USB ストレージをご利用の場合に、ドキュメントルート欄において、ディレクトリ名を入力した場合には、Web サーバにアクセスする時の URL を指定する際にドキュメントルートとして指定したディレクトリの記述を省略できます。

ディレクトリ名を入力しない(空欄)場合には、Web サーバにアクセスする時の URL を指定する際にルートディレクトリ以下のディレクトリを記述してください。なお、ATA PC カードメモリをご利用時にドキュメントルートを指定する場合は、ATA PC カードメモリのホームディレクトリ "www" を含めたディレクトリ名を入力してください。

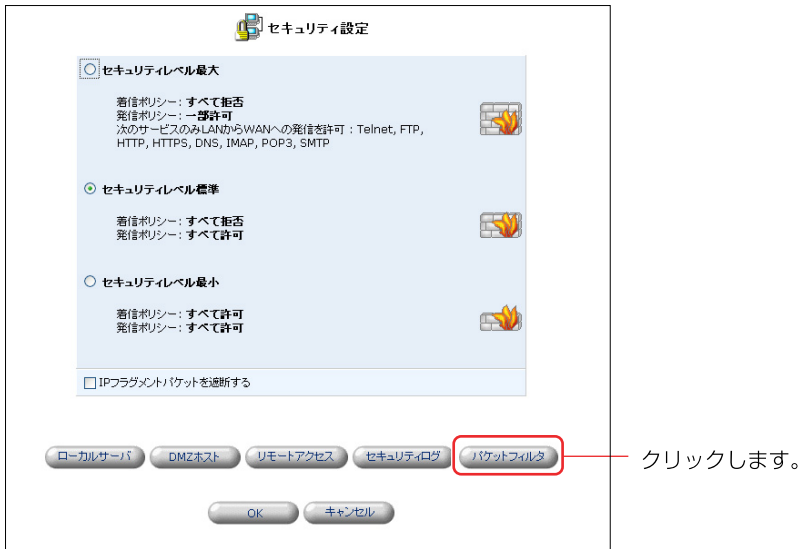
例えば、"www" ディレクトリの中の "html" ディレクトリをドキュメントルートとして指定する場合は、"www/html" と入力してください。

Web サーバにアクセスする時の URL 指定の詳細については、P.10 - 98 「インターネットから Web ページを見る場合」を参照してください。

- 5 次に本商品のパケットフィルタリングの設定をします。
 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 6 [セキュリティ設定]画面が表示されます。[パケットフィルタ]アイコンをクリックします。



- 7 [受信パケット]欄から[WAN PPPoEルール][修正]ボタンをクリックします。

セキュリティ設定

パケットフィルタルールを設定する接続を選択してください。

受信パケット

LANポート ルール	修正
WAN PPPoE ルール	修正

送信パケット

LANポート ルール	修正
WAN PPPoE ルール	修正

[戻る](#)

[修正](#) クリックします。

- 8 [WAN PPPoEルール設定]画面が表示されます。[新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。

WAN PPPoE ルール 設定

ルール ID	送信元IPアドレス	送信先IPアドレス	サービス名	動作	削除
新規作成					追加

[OK](#) [キャンセル](#)

[追加](#) クリックします。

- 9 [フィルタルールの追加]画面が表示されます。[ユーザ定義サービス]をクリックします。

フィルタルールの追加

IPアドレス

送信元IPアドレス: 1個を指定
0 . 0 . 0 . 0

送信先IPアドレス: 1個を指定
0 . 0 . 0 . 0

動作

継承する

転送する

このルールに合致するパケットと、このパケットに関わるセッションのパケットをすべて転送します。セッションはSPI(Stateful Packet Inspection)により管理します。

転送する(パケット)

このルールに合致するパケットのみを転送します。SPI(Stateful Packet Inspection)によるセッションの管理は行いません。

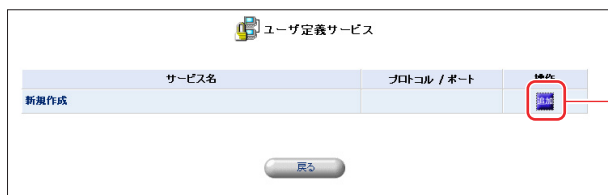
ログ設定

このルールに合致したパケットをログに記録する

サービス名	プロトコル / ポート
ユーザ定義サービス	

[ユーザ定義サービス](#) クリックします。

- 10 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。[新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。



追加 クリックします。

- 11 [サービスの編集]画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



追加 クリックします。

- 12 以下の情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。



設定します。

クリックします。

プロトコル：TCP
送信元ポート：すべて
送信先ポート：1個を指定、8008

13 [サービス名] 欄に任意の名前を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



サービスの編集

サービス名:

サービスの説明:

プロトコル	詳細	操作
TCP	すべて -> 8008	修正 削除

[新規作成](#)

14 [戻る] ボタンをクリックします。



ユーザ定義サービス

サービス名	プロトコル / ポート	操作
PHP	TCP すべて -> 8008	修正 削除

[新規作成](#)

15 [フィルタルールの追加] 画面に戻ります。以下の情報を設定します。

1. 選択します。

2. チェックします。

サービス名	プロトコル / ポート
PHP	TCP すべて -> 8008

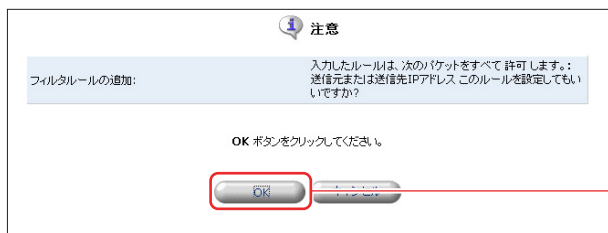
送信元 I P アドレス : すべて
送信先 I P アドレス : すべて
動作 : 転送する

16 [ユーザ定義サービス] 欄から作成したサービスにチェックを付けます。

チェックします。

サービス名	プロトコル / ポート
<input checked="" type="checkbox"/> PHP	TCP すべて -> 8008

17 [OK] ボタンをクリックすると、[フィルタルールの追加] の注意メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



クリックします。

インターネットから Web ページを見る場合

本商品の P H P 対応 W e b サーバに設置したファイルをインターネットから接続して見る場合は、設定した内容により指定する U R L が異なります。

1 . パーティション指定無し ドキュメントルートディレクトリ指定無しの場合
従来通り、ATA P C カードメモリの “ w w w ” ディレクトリが Web サーバのドキュメントルートとして参照されます。ただし、U S B ストレージデバイスが接続されている場合は、各パーティション番号 (A ~ N) をディレクトリの冒頭に記述することで、各パーティションのルートディレクトリを参照することが出来ます。

・ATA P C カードメモリの “ w w w ” ディレクトリを参照する場合

http://WebCaster 7000 の WAN 側 I P アドレス : 8 0 0 8 /
“ w w w ” ディレクトリの中のディレクトリ及びファイル名

(例) “ w w w ” ディレクトリの中に “ h t m l ” ディレクトリを作成し、
その中に “ i n d e x . h t m l ” ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/html/index.html

・U S B ストレージデバイスの各パーティションを参照する場合

http://WebCaster 7000 の WAN 側 I P アドレス : 8 0 0 8 /
パーティション番号/ルートディレクトリ以下のディレクトリ及びファイル名

(例) パーティション A のルートに “ w e b p a g e ” ディレクトリを作成し、
その中に “ i n d e x . h t m l ” ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/A/webpage/
index.html

2 . パーティション番号のみ指定した場合

U S B ストレージデバイスをご利用の場合に、指定したパーティションのルートディレクトリをドキュメントルートとして参照することが出来ます。

http://WebCaster 7000 の WAN 側 I P アドレス : 8 0 0 8 /
ルートディレクトリ以下のディレクトリ及びファイル名

(例) パーティションとして “ A ” を指定し、パーティション A のルートに
“ w e b p a g e ” ディレクトリを作成し、その中に “ i n d e x . h t m l ”
ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/webpage/index.html

3. ドキュメントルートのみ指定した場合

指定したディレクトリをドキュメントルートとして参照することが出来ます。

・ATA PCカードメモリをご利用の場合

http://WebCaster 7000のWAN側IPアドレス：8008/
ドキュメントルート以下のディレクトリ及びファイル名

(例)ドキュメントルートとして“www/html”を指定し、ATA PCカードメモリのホームディレクトリ“www”の中に“html”ディレクトリを作成し、その中に“index.html”ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/index.html

・USBストレージデバイスをご利用の場合

USBストレージデバイスをご利用の場合は、ドキュメントルート欄に参照するパーティション番号を記述する必要があります。

http://WebCaster 7000のWAN側IPアドレス：8008/
ドキュメントルート以下のディレクトリ及びファイル名

(例)ドキュメントルートとして“webpage”を指定し、パーティションAのルートに“webpage”ディレクトリを作成し、その中に“index.html”ファイルを設置し、ドキュメントルート欄に[A/webpage]と記述した場合

http://***.***.***.***:8008/index.html

4. パーティション番号およびドキュメントルートを指定した場合

USBストレージデバイスをご利用の場合に、指定したパーティションの指定したディレクトリをドキュメントルートとして参照することが出来ます。

http://WebCaster 7000のWAN側IPアドレス：8008/
ドキュメントルート以下のディレクトリ及びファイル名

(例)パーティションとして“A”、ドキュメントルートとして“webpage”を指定し、パーティションAのルートに“webpage”ディレクトリを作成し、その中に“index.html”ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/index.html

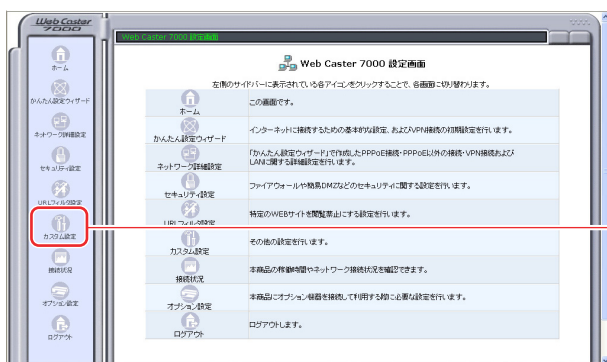
IPv6 ブリッジ設定

本商品はIPv6ブリッジ機能に対応しています。本機能を利用することでIPv6プロトコルを利用したパケットについて、WAN-LAN間の通信データを全てブリッジすることができます。

これにより、通常のPPPoEによるインターネット接続等とIPv6ネットワークをLAN側に設置されたパソコンで同時にご利用頂くことが可能となります。

パソコンのIPv6設定については、お使いのパソコン及びOSの取扱説明書等をご覧ください。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



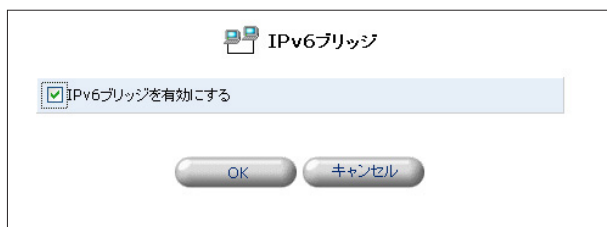
クリックします。

- 2 [カスタム設定] の画面が表示されます。[IPv6ブリッジ] アイコンをクリックします。

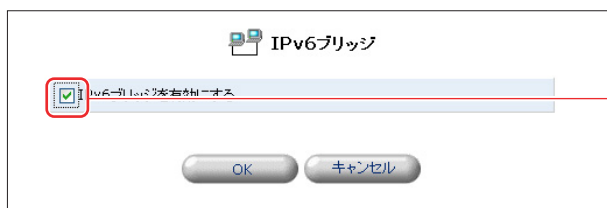


クリックします。

3 [IPv6ブリッジ] の画面が表示されます。



4 [IPv6ブリッジを有効にする] にチェックがついているのを確認します。本商品のIPv6機能を無効にする場合は、チェックを外します。



確認します。

5 [OK] ボタンをクリックします。

10

追加機能

FTP ユーザアカウント設定

本商品はATAカード、USBストレージを使用したFTPサーバに対応しています。FTPサーバを使用する場合は、FTPサーバ用のユーザアカウントを作成してください。なお、FTPサーバ用のユーザ名は最大45桁、パスワードは8桁（64文字まで入力可能ですが、9桁以降は無効）までになります。

FTPサーバへのanonymous設定

本商品はATAカード、USBストレージを使用したFTPサーバへのanonymousログインに対応しています。なお、anonymousログインを許可するためには、“anonymous”というディレクトリをFTPサーバが動作するストレージ（ATA PCカードメモリまたはUSBストレージの最初のパーティション）の“/”（ルート）ディレクトリに事前に作成しておく必要があります。anonymousユーザは、このディレクトリ内のみ接続することができます。

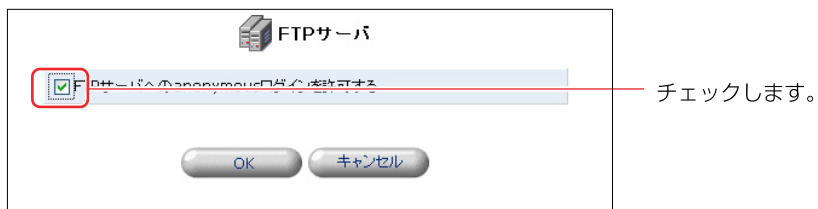
- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



- 2 [オプション設定] 画面が表示されます。[FTPサーバ] アイコンをクリックします。



- 3 [FTPサーバ]の画面が表示されます。
[FTPサーバへのanonymousログインを許可する]にチェックします。



- 4 [OK]ボタンをクリックします。

